

日光門前まち歩き＋日光サーベイ まとめメモ

開催日時：平成24年8月19日（日）
まち歩き 10時～12時（JR日光駅～神橋）
ワークショップ 13時30分～16時（於：日光公民館）

ワークショップにおいて出された意見

●将来のまち

- ・いろいろな年代の方が住める、交流できるまちに！
- ・高齢化による商業空洞化が心配→街のなかが歯抜けに
- ・これから建物が空いて行く→どう活かすか？
- ・新しいものを作る→今あるものを活用
- ・既存のものをどう最大に活かしていくか
- ・行政がつくるもの（ハード）と住民の盛り上げ（ソフト）にギャップ

●案内力

- ・バスの案内がわかりにくい
- ・案内表示「～まで●キロ」より「歩いて●分」の方がわかりやすい
- ・龍の街路灯なんで龍なの？初めて訪れた人にはわからない
- ・御幣の説明必要

●駅前

- ・JR・東武駅前の賑わいの差
- ・東武日光駅前広場の使い方統一感が？
- ・両駅つながってる？
- ・東武＝まち、観光地 JR＝寂しい
- ・人を迎え入れる構成になっていない
- ・駅前の空間構成の工夫が必要（JR～東武）
- ・車中心の空間になってしまっている

●大通り

- ・反対側に渡れない（反対側に魅力があっても）

<整備後の大通り>

- ・街並整備がおもてなしのきっかけづくりにもなっている
- ・新しく生まれた空間はおもてなしの表現多い

<未整備の大通り>

- ・旧歩道は狭い。人が車道にはみだす。

●店作り、空間づくり

- ・もてなし表現のセンス
- ・もてなしの表現の理解を
- ・東京のようなオープンカフェ的空間の仕掛け
- ・一方で、センスを高めながら「日光らしさ」「日光ならではの」も！
- ・笑顔！
- ・「ちょっとつまみ食い」できる店、歩きながら買い食い店が少ない
- ・買い食いの感覚
- ・シャッター空間は寂しい（閉店時、シャッター以外の工夫を）
- ・OPENとCLOSEの空間作法
- ・店内が見えるかどうか大きい
- ・生活景（普段の生活＋文化）

●にぎわいづくり

- ・賑わいのあるところは人が集まっていた（人が人を呼ぶ）
- ・人だまり、集まり、におい
- ・定期的な「市」がない →日光マルシェの開催を！

●ブランド力、数と質

- ・まちに来る目的、本質的なものは？
- ・イベント、人を集める工夫
- ・流行や話題に乗り人を集めるのは簡単であるが、即時的なもので、長期的な解決には繋がらない。
- ・質を高めながらより数を増やす

●御幸町駐車場

- ・活用されていなかった。駐車は2～3台程度。
- ・駐車場まで車が入ってくる様子は見られるが、案内板を見て行ってしまう。（料金設定の所為か？二社一寺まで距離の所為か？よく分析してみる必要がある）
- ・御幸町駐車場を活かす新たなまち歩きコースの提案
- ・車→歩行となった時の情報のわかりにくさ
- ・郷土センターとの一体感、連動が必要ではないか

●植栽による効果

- ・日影空間がない！木陰の少なさ。暑い！
- ・植栽により空間が和らぐ
- ・花＝はなやかさ 高木＝場所を示す、木陰

●サウンドスケープ

- ・風を感じる風鈴の音
- ・風鈴祭りを！

●大通りの喧騒

- ・大通りを歩く＝うるさい！（車・バイク）
- ・車の音でしゃべり声が聞こえない。落ち着かない。
- ・人、車両方の導線である。
- ・まちなか散策ルートの性格分け

●横町、裏通りに秘めた可能性

- ・裏通りの魅力づくり、落ち着き
- ・きなこ屋横町＝気持ちの良いスケール感
- ・新谷（にいや）のなごり、埋もれた歴史を掘り返す術はないか？
- ・裏通り歩きの可能性
- ・大通り＝ガヤガヤ歩き 裏通り＝しっとり歩き
- ・「横町」を見せる工夫

●規範

- ・規範の弱さ＝具体策

●まち歩きをやろう！ワークショップをやろう！

- ・まちを感じる事＝歩くこと！
- ・回毎に観察テーマを決めてやってみる
- ・日光を知らない人にも参加してもらおう回もどうか
- ・中高生も参加してもらいたい
- ・行政も参加して欲しい
- ・老若男女誰もが対等な立場での議論の必要性
- ・人の意見を否定をしない意見出しの必要性
- ・課題を共有・整理してまちづくりを進めて行く場の必要性

<気付いた点（早めの対応を）>

- ・東武・JR 間の相互乗り入れ記念プレートの劣化が酷い。本来の文面が分からなくなっている。 ⇒行政
- ・龍の街路灯蜘蛛の巣だらけ、シーズン前に掃除を！ ⇒NPO 日光門前
- ・天海僧正像脇の案内板の劣化、天海僧正像の案内板の劣化 ⇒行政